

参加者

## 【協議会委員（敬称略・順不同）】

	氏 名	職 名	
1	楠野 宣孝	学校法人樟蔭学園 樟蔭中学校・高等学校 理事・校長	出席
2	小山 健蔵	大阪教育大学 教授	出席
3	傳馬 美弘	大阪市立市岡東中学校長	出席
4	加藤 昭弘	大阪市立波除小学校長	欠席
5	野上 千春	社会福祉法人 波除学園総園長	出席
6	塚目 晃広	保護者（PTA 会長）	出席

## 1. 学校長あいさつ

## (ア) 来年度からの港高校

7クラス編成に変更。少子化に伴い、今後も減少する見込み。

生徒数にあわせて学校数を決めていくため、今後は“学校の売り”をもっと打ち出していく必要がある。

## (イ) 港高校の現状

先日行われた、「教えてっ！先輩」では多くの卒業生を迎え、港高校の伝統、歴史を再確認することができた。

## 2. 協議内容

## (ア) 「H29 9月進路マップ オリジナル質問」の結果報告と考察

## ①アルバイト

アルバイトを経験したことがある生徒は 80.4%。そのうちの 4 分の 3 はお小遣いのため。

入学前からしている者が 2 割で、1 年生 1 学期中間までで 5 割の生徒がバイトを経験している。

➤ 4・5月の活動を通して、対策を講じる必要がある

## ②食・住

弁当を持ってくるものが 75%。昼食を食べないものが 0.6%。

落ち着いて勉強できる場所がない生徒が 16%。

➤ 多くの生徒は適切な環境で生活できているが、一部生徒の生活環境に不安要素あり。

## ③学習

自宅学習が 0～30 分のものが 80%。授業中先生の話したきちんと聞いている者は 55%。

港高校に入学したいと思って入学したものは 85%。

➤ スマートフォンの使用時間の結果と照らし合わせて、平日の 1 日には、アルバイト（もしくは部活動）を行い、スマートフォンを 2 時間使用し、学習時間 30 分以下で、睡眠時間が 4～6 時間という港高校の生徒像が考えられる。

## (イ) 分掌マネジメント

### ① 学年

- 遅刻者が学年を追うごとに増加している。
- 入学時の学力差が大きい。
- 目的を明確にして、1年次から4年制大学を目指すだけの確かな学力を育成する必要がある。
- 1年次に漢検を実施し、合格率50%を目指す。試験を通して、勉強したことが結果につながる過程を体感させ、それが勉強への意欲向上につながると思われる。

### ② 教務部

- 「確かな学力の育成」のために学力向上 Project チームを発足。
- 大学入試制度の転換に対応するために、観点別評価の規準作成を見直す必要がある。
- 学校運営体制の強化、改善のため、他府県の高校への研修実施。
- 教務部業務の文書化、データ化による引継ぎ体制の整備。

### ③ 生徒指導部

- 遅刻指導への取り組みとして、正門当番による追い込みを実施により、生徒の遅刻に対する意識の改善が見られた。
- 女生徒に対し、本校の紺色のスカートを着用するよう再登校指導を実施。結果、1・2年生では改善が見られたが、3年生では本校のスカートを所持していない者もあり、臨機応変に対応している。
- 盗難防止に向けて、移動教室時の施錠の徹底、教員による施錠の確認及び見回りを行っている。生徒の貴重品に対する管理意識の低さもあるが、見回り等の強化が必要かもしれない。

### ④ 自治会

- 生徒の自主的な運営はほとんど見られず、教員の指示を待つ生徒集団となっている。
- 体育際の応援団は一定の自主的運営を達成できたが、行事後に大きく意識意欲の低下が見られたため、行事後の支援等により改善が必要である。

### ⑤ 進路指導部

- 近年は指定校推薦で入学する生徒が増えており、上を目指す生徒が減少している傾向にある。
- 予約奨学金については8割程度の生徒が応募している。
- 給付型の奨学金については、今年度は本校から17名の推薦枠が設けられており、非課税であることを条件として、成績において選考を行っている。
- 業務体制として、昨年度は1名、今年度は2名で行っている。

### 3. 意見交換

#### (ア) 「H29 9 月進路マップ オリジナル質問」の結果報告と考察

- ① 生徒の目的を明確にし、生徒と保護者の学校に対する満足度を調査する。
  - 生徒と保護者に対して学校に対しての満足度を調査することによって、学校のあり方、改善点等を見直すことができる。
- ② 生徒の現状について
  - アンケートの結果から、港高校では自分の欲求に対してエネルギーを消費し、本分である学業等へのモチベーションが低下している。
  - 生徒に明確なビジョン（目的）を持たせ、モチベーションを向上させる必要がある。
  - アルバイトについて、生徒の家庭環境に合わせて対応していく必要がある。
  - スマートフォンの普及により、生徒が教えてもらうという形が減少し、自らで調べて解決するという自己解決型になっているため、自ら発言する者が減少している。

#### (イ) 今後の港高校の在り方

- ① 少子化に伴う、クラス数の減少に対して、港高校の強みを作る。
  - 港高校は 100 校以上の中学校から生徒が来る学校であり、それを強みにして地域を問わずにさまざまな学校から生徒を募集することができる。
  - “伝統ある港高校”というネームバリューを活用する。
  - 府内外を問わず、国内で学校同士の連携を図っていく。
  - 伝統校であることを活用し、後援会での奨学金の援助を呼びかける
- ② 現状の課題解決に向けて
  - 遅刻者を減少させるために、遅刻したら罰を与えるのではなく、なぜ遅刻したのかという点に焦点を当て、生徒の時間を守らせる気持ち育成することが重要である。
  - 達成目標を明確にすることで生徒のモチベーションを向上させ、それが遅刻者の減少等につながっていく。

### 4. 諸連絡

#### 第 3 回学校協議会開催日程

平成 30 年 2 月 17 日(土) 13:00~